

科目名	保育の基礎理論				試験	50%
	必修・選択	必修	授業形態	講義		評価の方法
担当者	小林 建一				提出課題	—
	単位数	2	学年・期間	1 年 後 期	授業態度・意欲	10%
授業のねらいと概要	保育の歴史・思想や制度、内容、方法、現状と課題などについて、体系的な学習を進めながら、保育全般について理解を深める。テキスト、プリント、パワーポイント等による学習を中心とするが、必要に応じて討議や発表等を行う。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の基本的な知識を身につけ、保育の意義が理解できるようになる。 ・望ましい保育のあり方について思考し、判断する能力が身につく。 ・自らの保育についての考え方を表現する力が身につくと同時に、実際に保育を展開する技能の基礎が培われる。 ・子どもの最善の利益となるような保育への関心・意欲・態度が育つようになる。 					
学習者への期待(含準備学習)	事前にテキストの該当箇所を読んでおくことが望ましい。授業中に生じた疑問点等は質問するなど、学習への積極的な取り組みを期待する。					
回	授業計画			授業内容		
1	保育の基本Ⅰ			保育とは何か、子どもの最善の利益と保育		
2	保育の基本Ⅱ			保育の社会的な意義と役割、保育所保育と家庭的保育		
3	保育の基本Ⅲ			養護と教育の一体化、環境を通して行う保育		
4	保育の制度と現状Ⅰ			保育所・幼稚園・認定こども園		
5	保育の制度と現状Ⅱ			最低基準と保育施設環境		
6	保育の制度と現状Ⅲ			諸外国の保育制度		
7	保育の目標と内容			保育所保育指針の基本的な考え方		
8	保育の方法Ⅰ			生活と遊びを通して総合的に行う保育		
9	保育の方法Ⅱ			発達過程に応じた保育		
10	保育の方法Ⅲ			個と集団を生かした保育		
11	保育の計画と評価			計画・実践・記録・評価・改善の過程		
12	保育の思想と歴史Ⅰ			諸外国の保育の思想と歴史		
13	保育の思想と歴史Ⅱ			日本の保育の思想と歴史		
14	保育者の専門性Ⅰ			保育士の資質・任務・職業倫理		
15	保育者の専門性Ⅱ			家庭・地域等との連携や協働		
テキスト	森上史朗・小林紀子・若月芳浩編：『最新保育講座1 保育原理』（ミネルヴァ書房）					
参考文献	厚生労働省編『保育所保育指針解説書』（フレーベル館）					